



芸術に、助成金は必要か？

\*\*\*

*Why are Artists poor?*



**MORIMURA SEMINAR**

**SHIRAKAWA / KATSUMATA / HORIE**

## はじめに

今回、私たちは、芸術において政府からの助成金は必要かどうかという問いについて論じる。

発表は、大きく分けて三つに分かれる。第一に、アーティストの平均収入は低いという事実がありながらも、なぜ多くの人間がアーティストを目指すのかについて論じる。第二に、アーティストが貧困に陥る構造的な原因について論じる。最後に、「コスト病」というアーティストの貧困のひとつの原因となる問題について取り上げ、論じる。

私たちのテーマである、「芸術に、助成金は必要か？」という問いは、「アーティストの貧困は助成金で解決すべきものなのか？」また、「それは可能であるのか？」という問いにもつながる。一見、芸術に貢献しているように思われる助成金だが、アーティストにどのような影響を与えているのか、考えていきたい。

## 第5章 アーティストにとってのマネー

アーティストは誤った情報を与えられたギャンブラーにすぎないのだろうか

### ■ 芸術における収入

「芸術におけるトップレベルの収入は、同じような訓練を要する他のいかなる職業よりもずば抜けて高い」(p.183 より引用)

↓

「芸術における収入の平均(と中央値)は、比較し得る他の職業よりも一貫して低い」(p.192 より引用)

→収入には、極端に不公平な分配が存在

→芸術における収入がなぜ低いかの6つの説明(p.193 参照)

### ■ 収入が低いのに、なぜアーティストを目指すのか？

アーティストは「誤った情報」を与えられているから

→アーティストに与えられる5つの「誤った情報」(p.203 参照)

平均的収入が低いにもかかわらず、なぜ人々はアーティストになりたがるのか

→6つの理由(p.206 参照)

## 第6章 構造的貧困

助成金や寄付は貧困を増大させるのだろうか？

### ■ 芸術家はいつの時代も貧乏だったわけではない

→十九世紀…芸術家は組合のような機関によって収入が保証。

しかし、組合に頼らないポヘミアンアーティストが現れることによって芸術家の収入が下がり始めた。

### ■ 芸術における貧困は構造的なものである。

→芸術家は最低限の収入さえあれば作品制作を続けることができるので、芸術への支出が増加したとしても芸術家の数が増えるだけなのだ

### ■ オランダにおける芸術家への助成金は芸術家を増やした。

→かつてオランダにおいて芸術家への助成が行われた時、芸術系の大学に入学する学生が急増した。

### ■ 助成金は直接的効果より信号効果の方が強いので芸術家の数を増やす。

直接的効果：目的に適った影響のこと。

信号効果：助成金の目的とは別に助成金の存在が知られることにより生まれる影響のこと。

### ■ 芸術家は生産者というよりはむしろ消費者である。

生産者：お金を稼ぐ人のこと。

消費者：お金を使う人の事。

## 結論

現在では副業によって生活費を稼ぐハイブリット型アーティストも増えてはいる。しかしその数は依然として少ないので、芸術における低収入は多くの芸術家の暮らし向きが悪いという事を意味する。その原因は助成によって生まれる信号効果によるところが大きい。

## 第7章 コスト病

芸術のコストが上昇するために助成が必要なのだろうか？

### ■ 上昇するコストとアーティストの自律性

アーティストの自律性＝芸術作品もコストや需要を顧みずに生産されるに値する

★「神聖な芸術に値段をつけられない、コストは無関係だ」という態度は芸術界にも広まっている(テーゼ 53)

### ■ 政府からの助成金

助成金の擁護者：「政府が助成金をやめると、芸術(ハイアート・伝統的舞台芸術)が消えていってしまう」

### ■ コスト病とその問題

**コスト病**(ボーモル/ボーエン)：コストの上昇によって、芸術は次第に競争力をなくしてしまい、助成金や寄付がなければ生き残れない(P.267)

EX)リアルタイムの個人的サービス(役者、ダンサー、音楽家)

⇒本人がいなければ、その特定のサービス自体が存在しない

**問題** コスト病の問題

1. 消費単位に対する総労働力コスト
2. 総コストに占める労働コストに占める労働コストの割合は、他の分野よりも芸術の方が高い

### ■ コスト病の重要度が低い理由

1. 質は一定ではない
2. 技術進歩
  - ・生産性の向上 ex) 記譜法の導入
  - ・多様性の増大 (コーエン)⇒労働力の省力化
3. 趣味の変化
  - ・ 値段と趣味は互いに依存し合っている  
EX)写実的な肖像画と肖像写真
  - ・ 魅力的な作品を生み出している  
(テレビ、ビデオは趣味の変化を喚起する要素)

★助成は長い目で見るとコスト病を悪化させる。したがって、助成を減少させることが、コスト病に対する最も良い治療法である(テーゼ 69)

## おわりに

多くのアーティストたちは「芸術の神聖さ」を信じている。  
「政府が助成金をやめると、芸術が消えてしまう」という主張は間違いである。

「はじめに」で述べた「アーティストの貧困は助成金で解決すべきものなのか」という問いに対して、私たちは、貧困は深刻な問題ではないと考え、  
「助成金で解決すべきものではない」と答える。なぜなら、第5章の「誤った情報」を信じている限り、アーティストは貧困を理由に芸術活動をやめることはないだろう。また、政府による助成金が無くても、第6章で提示されているように、副業を持つなどの工夫をすることで、生き延びていくことができる。

さらに、「アーティストの貧困を助成金で解決することは可能であるのか」という問いに対して、私たちは、「可能ではない」と答える。なぜなら、助成金は、芸術における信号効果の影響により、さらに貧困を拡大させることに繋がるからである。

これらの理由から、今回のテーマである「芸術に、助成金は必要か」という問いに対し、「政府からの助成金は必要ない」と考える。

メモ





